

2004年度 夏季現地研究会 長良川が育てた町 ～ 郡上八幡・美濃・岐阜～

2004年の夏季現地研究会は「水環境とまちづくり」をテーマに、8月6日(金)～7日(土)、郡上八幡から美濃市、岐阜市にかけて見学します。前回のニューズレターで紹介した締め切りは過ぎていますが、まだ、宿泊に余裕がありますので、参加を希望される人は担当者(伊藤)までご連絡ください。スケジュールは以下の通りです。

【スケジュール】

2004年8月6日(金)～7日(土)

6日(金) 13:00 郡上八幡旧庁舎記念館 現地集合
八幡市街見学(井口貢会員の案内)

夜 郡上踊り見学

宿泊(吉田屋 岐阜県郡上市殿町160 TEL:0575-67-0001)

7日(土) 午前 レンタカーで長良川沿いを下る
美濃市(うだつの上がる街並み見学)

午後 岐阜市(長良川沿いの河原町の街並み見学)
夕方17:00ごろ岐阜駅にて解散

目次:

2004年度 夏季現地研究会ご案内	1
2004年度 冬季研究会ご案内	2
2004年度 研究大会のご報告	3
2004年度 総会の概要	5
新規加入会員案内	6
事務局からのお知らせ	7

【交通】

鉄道

名古屋	- (東海道線)	- 岐阜	- (高山線)	- 美濃太田	- (長良川鉄道)	- 郡上八幡
8:24		8:47		9:40		10:54
9:45		10:16		11:04		12:36

*長良川鉄道「郡上八幡駅」は町のはずれにありますので、30分ほど歩いていただくか、タクシーで町に入ってくださいこととなります(路線バスは?)。

高速バス

名古屋から

名古屋駅・名鉄バスセンターより、「郡上八幡行き」高速バス
9:30 11:24 「郡上八幡城下町プラザ」下車

名鉄バスターミナル - 名古屋駅より、「高山行き」高速バス

8:30 - 8:35 - 9:59 「郡上八幡IC」下車

9:40 - 9:45 - 11:09 「郡上八幡IC」下車

10:30 - 10:35 - 11:59 「郡上八幡IC」下車

岐阜から

名鉄新岐阜駅前より、「郡上八幡・白鳥行き」高速バス

9:00 10:22 「郡上八幡城下町プラザ」下車

10:00 11:07 「八幡営業所」下車

11:00 12:07 「八幡営業所」下車

「郡上八幡城下町プラザ」は八幡の町の中にあり、歩いてすぐに郡上八幡旧庁舎記念館に行くことができますが、「八幡営業所」「郡上八幡IC」は町のはずれにありますので、30分ほど歩いていただくか、タクシーで町に入っていただくこととなります（路線バスは？）。

「名鉄バスセンター」はJR名古屋駅から名鉄、近鉄駅ビルを越えた南にありますので、JRからですと、乗り換えに20分は必要だと思われます。

「高山行き」高速バスは名鉄バスターミナルからJR名古屋駅前にも止まります。JRの東口を出た北側の松坂屋ビルに市バスターミナルが併設されており、その一階が乗車場になっています。

【費用】 宿泊代：18,000円（1泊2食）
レンタカー代等各種費用は当日、参加者の人数割りで徴収させていただきます。

【申込締切】 定員（15名）になり次第、締め切らせていただきます。

【申込・問合せ先】 企画担当：伊藤達也（金城学院大学現代文化学部）
電話：052-798-0180（代表）内線254
ファクシミリ：052-799-2196
E-mail：tito@kinjo-u.ac.jp

2004年度冬季研究会のご案内
水政策と地域産業
- わが国の21世紀の産業的水利用の将来 - 第一報！

今年度の冬季研究会は「水政策と地域産業 - わが国の21世紀の産業的水利用の将来 - 」をテーマに底冷え厳しい京都で開き、地域の水とともに育った地域産業を再考し、近代の先人が残し今も現役の事業や生活に根付いている水文化の精華を訪ねたいと考えています。

「水の世紀」の21世紀になりましたが、国内外の水事情の現状を見ると、国民の水に対する見方は世界と相反していることに驚かされます。たとえば、世界的には、異常気象による周年的降雨パターンの変化に伴う水の偏在化や局所化、農業的水利用の増大、地下水の枯渇や汚染などが原因し水の価値が上昇している一方、国内では、ミネラル・ウォーターの生産・輸入増、工業用水の需要低迷、水道水使用量の停滞や公営水道事業の民営化など、国民や産業界の水使用基準が低減しつつある。このように水の価値観がゆるぎだした国内に目を向け、水と社会の視点より、水が興した地域産業や水が及ぼした生活産業について再考し、あらためて水を軸とする地域産業のあり方や地域活性化方策を論じる時期にあると考えています。

開催日は2005年3月上旬の土・日曜日を予定しています。現在、みのり多い議論と視察への誘いとなるよう、企画準備を進めており、みなさまには、次号のニューズレターにて行事内容をお知らせいたします。多数の参加をお待ちしています。

水資源・環境学会2004年度研究大会（第20回大会）報告

大会テーマ：水循環と自然再生

若井 郁次郎（大阪産業大学）

第20回研究大会は、6月5日（土）、キャンパスプラザ京都で開催され、35名という多数の参加者があり、盛況をもって予定通りのプログラムを無事に終えました。午前は、大会テーマ「水循環と自然再生」のもとに、すでに本学会で定着しつつある対談風により最新の水資源・環境の動向と自然再生事業事例を織り交ぜながら、理想と現実を直視した国民的課題や市民参画型社会での啓発活動のあり方など幅広く論じられました。午後は、学会総会から始まり、引き続き、5名による研究報告が休憩を挟んで行われました。そして、総合討論では、午前の対談及び午後の研究報告を受け、報告者と参加者の相互に第20回研究大会は、6月5日（土）、キャンパスプラザ京都で開催され、35名という多数の参加者があり、盛況をもって予定通りのプログラムを無事に終えました。午前は、大会テーマ「水循環と自然再生」のもとに、すでに本学会で定着しつつある対談風により最新の水資源・環境の動向と自然再生事業事例を織り交ぜながら、理想と現実を直視した国民的課題や市民参画型社会での啓発活動のあり方など幅広く論じられました。午後は、学会総会から始まり、引き続き、5名による研究報告が休憩を挟んで行われました。そして、総合討論では、午前の対談及び午後の研究報告を受け、報告者と参加者の相互による有意義な議論が交わされました。すべてのプログラムが終了したところで、会場を移して、ビアレストランにて懇親会を開き、和やかな交歓があり、次回の研究会の成功及び学会の発展を願って散会しました。

1. 対談会

対談会は、わが国の人と水の近代小史、水問題にまつわる最近の課題や行方を簡潔に述べ、要をえた水問題を提起した仲上健一氏の基調報告と、現在、環境省が全国において取り組みをしている自然再生事業の代表事例にもとづき自然再生の考えや意義を紹介した植田明浩氏の報告で始まりました。（植田明浩氏は、当初予定していました黒田大三郎課長の代理で出席していただきました。環境省自然環境局自然環境計画課長補佐）

仲上健一氏は、わが国の水問題は、旧河川法による治水や、殖産興業や富国強兵の社会的背景とした農業、生活及び工業の利水を促進した、明治期の外国人技術者に全面依存した水システム改造を起点とし、戦後の大水害、高度経済成長期の都市化や工業化でひっ迫した水供給への応急対策の水資源開発や

ダム開発、深刻化した水質悪化に対処した下水道事業、工学や技術に偏りすぎた河川整備による生態系の破壊へと至り、平成9年に河川法が改正され、今日の水循環や自然再生に継承されてきたという水問題の変容と顕在化の長い過程を説き起こし、それでは、いかに水循環や自然再生を考えたかといかか問う。氏によれば、自然は造化、つまり創造し生育するという明治以前の考えから自然摂理を科学的に捉える見方へと変化しており、直面している自然再生はこの視点からのアプローチであると述べ、水をめぐる対立と水の安全をめぐって、発展途上国都市圏の水問題、人口増減と水経営問題、都市化と水施設の維持管理問題、水道事業の民間委託・経営化、水の安全と健康問題、水の商品化といった諸問題より、公共事業のあり方、自然再生事業のあり方、地球環境経営と水環境制御の3つの論点に集約され、科学と行政と市民が連携し水資源・環境研究と政策的実践が重要になるとまとめられました。

この基調報告を受け、植田明浩氏は、人間の開発や活動による種の減少・絶滅、生態系の破壊・分断、自然に対する人間の働きかけの減少による自然への影響、移入種や化学物質による影響の3つの危機からわが国の自然生態系の現状と、1993（平成5）年の生物多様性条約の締結・発効以後の急速な法制度整備の動きが述べられたのち、新・生物多様性国家戦略の4つの理念「人間が生存する基盤を整える」「人間生活の安全性を長期的、効率的に保証する」「人間にとって有用な価値をもつ」「ゆたかな文化の根源となる」にもとづく3つの目標「各地域固有の生物の多様性を、その地域に応じて適切に保全すること」「とくに日本に生息・生育する種に、あらたに絶滅のおそれが生じないようにすること」「世代を超えた自然の利用を考えて、生物の多様性を減少させず、持続可能な利用を図ること」を達成する一環の代表的な自然再生事業として、国立公園内にありラムサール条約登録された釧路湿原を取り上げられ、自然再生推進法による釧路湿原自然再生整備事業の概要と自然再生釧路方式について紹介された。この自然再生釧路方式では釧路湿原の維持管理に携わる環境省、農林水産省及び国土交通省の関係省庁をはじめ、地元NPO、専門家などからなる自然再生協議会が母体となり、日夜再生への地道な努力が行われている実情が氏の経験を重ねて語られた。その他、くぬぎ山ふるさと自然再生事

業（埼玉県）、大台ヶ原自然再生推進計画調査（奈良県）、榎野（ふしの）川干潟自然再生推進計画調査（山口県）などの紹介も行われた。

両氏の基調報告や事例紹介の後、生態系に対する国民、市民、住民といった異なる立場での価値観の相違について討論されただけでなく、合意形成には情報の共有化と議論が重要になることが参加者の間であらためて認識されました。さらに、参加者からは、行政主導の参加方式は市民に押しつけることへの懸念や、外来種に対する生態的意味、新しい再生事業システムに対する日本人の能力問題、関係省庁間の現行システムを超えた事業展開の見込みなど厳しい質問が寄せられ、白熱する場面もあった実りの多い対談会でした。

2. 研究発表

研究発表は、以下の5名により行われました。

（1）水田哲生氏（立命館大学PD研究員）による「洪水リスクマネジメント技法に関する一考察 - 徳島県吉野川下流域をモデルケースとして - 」は、吉野川第十堰改築計画にともなう利水・治水の経済効果測定に費用便益分析を適用し計画案の実施が不利であるとの検証を経て、徳島県北東部の上板町の町民にアンケートを行い、治水に対する防災意識・行動や金銭補助感覚を調査し、浸水シミュレーションで推定した期待被害額を基本に被災後の速やかな生活復旧のための複数のソフト方策が比較考察された報告であった。忘れるころにやってくる天災への警鐘を喚起する発表で今後の研究発展が期待されるものであった。

（2）川内眷三氏（四天王寺国際仏教大学）による「大仙陵池と狭山池にみる水環境再生施策の構図と課題 - 歴史地理学の視点から - 」は、これまで地域の水環境再生にあたっては、あまりにも水と地域社会との長くて深いかかわりが考慮されることが少なかったことから、静態的な水環境再生施策にとどまっていたが、歴史地理学の視点より地表空間と歴史空間とからなる水利空間を捉えることにより、大阪府下の大仙陵池と狭山池との歴史的な水利関係の調査事例にもとづき動態的な水環境再生施策に転換できることを展望した報告であった。水環境計画に携わる研究者や実務家に水系変遷の重要性を再認識させるうえで示唆に富む内容であった。

（3）若菜博氏（室蘭工業大学）による「近世日本における魚附林と物質循環」も、歴史的文献・資料と積極的な現地調査・検証にもとづく報告であった。この発表は、近世においてわが国に見られた魚附林思想とイワシ・ニシン漁業保護のための森林保護・育成や、開発圧力に抗してサケ漁業を保護した森林法の法思想を歴史的検証により明らかにし、ま

た川と海との水を介した物質循環や自然環境の連続性という立体的視点だけではなく、河川流域と海域の総合的環境保全が双方の生態系の多様化や水面漁業の生産性向上に寄与していることを歴史的事実にもとづき立証した内容であった。参加者に対して河川流域保全と海域漁業の関係の重要性を覚醒させるものであった。

（4）秋山道雄氏（滋賀県立大学）による「琵琶湖沿岸域における自然修復・再生の課題 - 沿岸域管理の視点から - 」は、循環型社会形成や自然環境管理をめぐる制度設計を背景に、琵琶湖沿岸域の自然修復及び景観生態学の視点より、これまで地理的位置付けが不明確で適切に取り扱われなかった沿岸域の概念を厳密に分類し、その分類結果にもとづき景観生態学視点より評価し沿岸域の類型化を行ったうえで、沿岸域管理の考え方 coastal resilience の導入により湖岸堤の建設位置と汀線の関係より湖中タイプ、汀線タイプ及び湖岸タイプの3種類を提案し、また琵琶湖沿岸域の状況変化に生態系管理の考え方を加味し、沿岸域の特性に沿った保全制度や条例等の制度化の必要性を論述した内容であった。

（5）足立考之氏（内外エンジニアリング株式会社）による「地域再生の視点からみた水環境形成の課題と展望は、流域圏に着目した国土の総合的な整備、改正河川法、自然再生推進法などの社会的背景の中で農山村地域の課題整理を行い、解決事例として水を活かした「吉野川源流88カ所水めぐり」プランを紹介し、発展的に「飲む水」「見る水」「使う水」の3視点より水環境の分類と評価を試みている。また、都市地域の水環境は、都市機能、都市景観及び都市自然の3機能より構成され、これらを「環・リンク」として捉え、都市の水環境課題に対処するとともに、環境形成には「水の系」として認識することが重要であると論述している。最後に、水辺都市再生イメージ例を紹介し、自然空間と人工空間とが重複する自然的空間の概念を紹介し、これが今後の地域再生の要になる言及している。

3. 懇親会

研究大会終了後、近くのビアレストラン「スーパードライルネサンス」に移動し、午後5時30分、27名が集い、最遠方地の参加者の若菜博氏（室蘭工業大学）による乾杯の発声で懇親会が始まりました。会場内では、長方形に並べられたテーブルを27名の参加者がぐるりと取り囲み、隣同士、対面同士と交差し、研究内容や研究方向の議論、水資源・環境学会を活発化する討論などが飛び出すなど、なんとも圧巻の情景でした。室温と熱気がともにくんぐん上昇し、ビール消費量はとどまるところがない勢いでしたが、ピークを迎えたと察し最高潮で散会しました。

2004年度総会の概要

去る2004年6月5日に開催された大会とあわせて、学会総会がもたれました。総会では以下の議案が審議され、議決されました。

第1号議案 2003年度事業報告

2003年度の研究事業として以下の事業の報告がありました。

- 1) 研究事業
2003年6月14日 研究大会
テーマ「地域社会と水環境」
すみだ中小企業センター
2003年8月4～6日 夏季研究会
「高知県・四万十川視察」
2004年3月6日 冬季研究会
「河川政策から水循環政策への転換」
大学コンソーシアム京都

- 2) 学会誌事業 『水資源環境研究』vol.16の発行

- 3) 広報事業 ニュースレターの発行(3回)
ホームページの運営

- 4) その他

去る2004年6月5日に開催された大会とあわせて、学会総会がもたれました。総会では以下の議案が審議され、議決されました。

第1号議案 2003年度事業報告

2003年度の研究事業として以下の事業の報告がありました。

- 1) 研究事業
2003年6月14日 研究大会
テーマ「地域社会と水環境」
すみだ中小企業センター
2003年8月4～6日 夏季研究会
「高知県・四万十川視察」
2004年3月6日 冬季研究会
「河川政策から水循環政策への転換」
大学コンソーシアム京都

- 2) 学会誌事業 『水資源環境研究』vol.16の発行

- 3) 広報事業 ニュースレターの発行(3回)
ホームページの運営

- 4) その他

第2号議案 2004年度事業計画

今年度の事業計画として3種類の研究事業と学会誌の発行、広報事業が提案され、了承された。

- 1) 研究事業
2004年6月5日 研究大会
テーマ「水循環と自然再生」
大学コンソーシアム京都
2004年8月6～7日 夏季研究会
「長良川が育てた町 郡上八幡・美濃・岐阜」
2005年3月 冬季研究会

- 2) 学会誌事業 『水資源環境研究』vol.17の発行

- 3) 広報事業 ニュースレターの発行(3回)
ホームページの改善と充実

- 4) その他事業 研究叢書の発刊

第3号議案 2003年度決算報告

表1のように2003年度会計報告がなされ、原口宏房、富岡昌雄監事よりの監査報告が代読され、了承された。(次ページ表1参照)

第4号議案 2004年度予算案

今年度の予算案は事業別予算として提案され、了承された。

収入

個人会員	135	@¥5,000	¥675,000
学生会員	11	@¥3,000	¥33,000
法人会員	5	@¥30,000	¥150,000
合計			¥858,000

支出

1. 研究事業			
会議費	会場借上		¥20,000
事務費	消耗品		¥10,000
2. 学会誌事業			
印刷費	学会誌印刷		¥660,000
通信費	郵送料		¥50,000
3. 広報事業			
通信費	郵送料		¥35,000
事務費	消耗品		¥10,000
4. 事務局経費			
会議費	会場借上		¥45,000
通信費	郵送料		¥15,000
事務費	消耗品		¥30,000
5. その他			
予備費			¥43,000
合計			¥858,000

個人会員

敬称略

会員名	所 属	専 門 分 野 等
脇本 修自	広島大学大学院社会科学部	流域を単位とする中山間地域の維持システム
中庭 光彦	(有)地域計画研究所 ミツカン水の文化センター	水資源の共有資源管理 制度設計
粕谷 志郎	岐阜大学地域科学部	ダム、環境ホルモン
沖田ちづる	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科	官民協働による流域環境保全活動の現状と課題
川辺 みどり	筑波大学システム情報工学研究科	森林と河川・海のつながり

* 知り合いの方にぜひ、水資源・環境学会への入会をお勧め下さい *

学会事務局からの案内と連絡

原稿募集!

学会誌「水資源・環境研究」への投稿を募っております。次号の内容をさらに充実させるべく、皆さまのご投稿をお待ちしております。

次号の締め切りは、**8月31日**です。投稿規程や執筆要領は学会誌の巻末にあります。投稿希望の方は、裏面のエントリーシートを下記担当理事までご送付下さい。お問い合わせなども下記までご遠慮なく!

学会誌編集担当・事務局 野村 克巳

連絡先(自宅) 〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町8-7-610

電話 & F A X : 0797-34-4785 E-MAIL : nomnom@hi-ho.ne.jp

会員名簿発行しました

2004年度会員名簿ができあがりました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。記載事項に変更等ございましたら、下記学会事務局までお知らせ下さい。

E-MAILアドレスをお知らせ下さい

電子メールによる情報提供やお知らせ等ができるように準備をしています。電子メールアドレスを下記学会事務局まで電子メールにてお知らせ下さい。

学会事務局 仁連 孝昭 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500滋賀県立大学環境科学部内

TEL : 0749-28-8278 FAX : 0749-28-8348

E-MAIL : niren@ses.usp.ac.jp

発行: 水資源・環境学会

〒522-8533

滋賀県彦根市八坂町2500滋賀県立大学環境科学部内

電話 0749-28-8278 Fax 0749-28-8348

HP更新中!

<http://www.soc.nii.ac.jp/jawre>